

奥会津森林生態系保護地域の ニッコウキスゲ保全に向けて

尾瀬大江湿原における地域の関係者と協力した防護柵の設置活動

関東森林管理局 会津森林管理署南会津支署

ニホンジカによる 尾瀬大江湿原の 植生への影響



広さ約35haにわたる尾瀬の大江湿原は尾瀬国立公園の東側（福島県と群馬県の県境付近）に位置しており、福島県側はほとんどが国有林となっており、群馬県側はほとんどが国有林となっており、尾瀬を代表するニッコウキスゲやミズバショウなど様々な高山植物が四季折々の姿を見せ、観光客の目を楽しませています（写真1）。

しかし、平成20年頃からニホンジカによるニッコウキスゲの花芽の被害が年々増加したため、以前は大江湿原一面に咲いていたニッコウキスゲの開花

が一部分でしか見られなくなってきました。特に地元の檜枝岐村にとっては、重要な観光資源である尾瀬のニッコウキスゲの保全は喫緊の課題であり、檜枝岐村から会津森林管理署南会津支署にも防護柵の設置によるニッコウキスゲの保全について要望が寄せられました。

ニホンジカ対策の取組



このような状況を踏まえ、会津森林管理署南会津支署では、平成26年度より大江湿原の周囲に金属製の防護柵の設置を行っています。防護柵は、栃木県などで越冬したニホンジカが春に尾瀬の雪が解けると戻ってくることで、また冬季は雪の圧力により金属製の防護柵が破損してしまうことから、雪が解

「管内概要」

会津森林管理署南会津支署は、福島県南会津郡のうち、阿賀野川上流の只見川及び伊南川流域に位置する2町1村（只見町、南会津町、檜枝岐村）に所在する国有林約11万haを管轄しています。管内の国有林の大半が奥会津森林生態系保護地域や緑の回廊、尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園などの自然公園、只見ユネスコエコパークに指定されています。管内の大半の森林が冷温帯に属していますが、燧ヶ岳（2,356m）や会津駒ヶ岳（2,133m）などの高山も多く、その周辺の森林は亜高山帯あるいは高山帯に属しています。また、尾瀬地域、田代山（1,926m）山頂など多くの箇所で高山性湿原が形成されています。



所在地	福島県南会津郡南会津町山口字村上867		
区域面積	167,415ha	うち森林面積	158,619ha（森林率94.7%）
国有林面積	109,391ha（国有林率68.9%）		
管轄区の関係市町村	2町1村（只見町、南会津町のうち旧田島町を除く区域（旧南郷村、旧伊南村、旧館岩村の区域）、檜枝岐村		

署の基礎データ

ける6月頃に設置し、降雪前の10月頃に撤去しています。

さらに、観光客が湿原へ出入りする箇所(遊歩道)上に、ニホンジカの侵入を防止するために、扉やグレーチング^{*}を設置するとともに(写真2)、沿からの湿原への侵入を防止するために、景観を損ねない範囲で水面にネットを設置するなど、植生保護の効果を上げるための改良を重ねています。

^{*}「グレーチング」とは、鋼材を格子状に組んだ溝蓋のこと。ニホンジカはグレーチングを踏むことを嫌う習性がある。

地域協議会による ニホンジカ対策の取組



南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会は、尾瀬国立公園等のニホンジカによる生態系への影響を未然に防ぐことを目的に、福島県を事務局として設立されました。協議会には、メンバーとして南会津町、檜枝岐村、檜枝岐猟友会、尾瀬檜枝岐温泉環境協会、尾瀬保護財団、尾瀬山小屋組合が、オブザーバーとして環境省や会津森林管理署南会津支署が参加しています。

当初協議会では、各機関個々の取組や現地の被害状況の報告など尾瀬の保全に向けた情報交換や協議を行うことが中心でしたが、平成29年度から協議会メンバーや一般ボランティアの参画も得て防護柵の一部設置の協力を行うことになりました(写真3)。設置に当たっては、協議会の各団体がそれぞれ役割分担しながら実施し、会津森林管理署南会津支署は、作業箇所の整備や資材の準備、当日の設置作業の指導などを行っています。

また、防護柵の設置期間中は、ニホンジカのモニタリングや追い払い、く

くりわな等による捕獲も協議会メンバーで連携し取り組んでいます。

取組の成果と課題



これらの取組により、防護柵設置期間中のシカの目撃頭数は、防護柵の導入前に比べ減少しており、地元関係者からも、花芽の被害が減り、ニッコウキスゲの開花が徐々に回復しているとの評価を得られています。今年は7月下旬には多くの開花が見られ、地元の檜枝岐村の方からも、ここ数年で一番の開花状況であり大勢の登山客に喜ば

れているとの声が寄せられました。

協議会・ボランティアによる取組は、地域の関係機関、ボランティアなど地域内外の尾瀬の利用者が一体となって課題に取り組む体制を構築できたことが一番の成果であると考えています。

引き続き、効率的なニホンジカの捕獲や食害対策、ニホンジカの動向や植生のモニタリングを継続するとともに、地域や利用者が協力して取り組む体制を継続させていくことで、地域と連携した大江湿原のニッコウキスゲの保全活動を推進していきたいと考えています。



写真1 大江湿原のニッコウキスゲ



写真2 設置したグレーチング



写真3 シカの侵入を防ぐ防護柵を設置する様子